



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

主体的によりよく生きる

4都府県で緊急事態宣言が発令され、座間市は、まん延防止重点措置対象地域に追加されました。社会は厳しい状況ですが、子供たちは、新しい環境の中で、ときどきしたり、わくわくしたりしながら、1か月を元気に過ごしてまいりました。

さて、明日から連休に入ります。様々なことを自粛するのはいつまで続くのかと、正直、感情の部分では、いろいろな思いが出てまいります。でも、人の素晴らしいところは、感情に左右されない理性の力があるところであり、よりよいことは何かを自分で考え、選び、決定できるところだと考えています。

『私たちは環境の奴隷でなく、環境の主人として生きる自由が与えられているのであり、その自由は「自分が変わる自由」である。』(愛と祈りで子どもは育つ:渡辺和子著)

「何もできない。」という不平不満に縛られるのではなく、「できることがこんなにあるね」「こんなことができたね」と、感謝しながら日々過ごすことを選んでいきたいと思ひますし、子供たちの中にもそういう見方を育てていきたいと思ひています。

伸ばしたい力

『自分の考えをもち、表現できる子』

これは、昨年度に引き続き、今年度も重点にしている目標です。

そのために、子供たちにどう関わっていくのか。その一つに、子供たちの中にある答えを信じて、引き出していこうとすること

と考えています。目の前の課題に対して、答えを求めてきたときに、大人が答えを言うてしまうのは簡単なことです。でも、子供たちに任せてみたり、「どう思う」「どうしたらいいと思う」と問うたりしていくことが、考える力を育てていく上で必要なことであるとともに、子供自身の中にある思いに気づかせていくことに繋がると考えています。

先日、登校途中、なかなか足が学校に向かない児童がいました。登校班の班長は、「どうしたらいいかな。」とつぶやき考えていました。見守っていると、「担任の先生に伝えてきます。」と、自分で答えを出し、行動していました。小さなことではありますが、こうした日常の中にある小さな出来事一つ一つが積み重なり、大きな実を結んでいくと思ひています。素晴らしい姿でした。

私たち大人は、そういった姿を見出した時に、「〇〇さんは、助かったと思うよ。力になってくれて、ありがとう。」「自分で考えて行動できたね。素晴らしいね。」と言葉に出して伝えることが大切なことであると思ひます。そうすることで、子供たちの中にある力がさらに伸びていくと思ひています。

始業式当日に、昇降口にあった一枚の張り紙について、紹介いたします。

くつは、自分で考えて、
空いているところにいれてください。
きみたちなら、できる！

靴を入れるという何気ない動きの中にも、子供たちの力を信じ、主体的に考えて行動する力を引き出そうとする思いが込められていました。素敵一枚の張り紙でした。